

2026年6月9日

報道機関各位



## 博多港にてバイオ燃料を用いた実証運航を実施

— 内航定期 RORO 船として博多港初 —

近海郵船株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：関光太郎）は、博多港～敦賀港間で運航する RORO 船「なのつ」において、2026年6月16日（火）、博多港にて補油したバイオ燃料を使用した実証運航を実施します。

本取り組みが実施されれば、博多港において内航定期 RORO 船としてバイオ燃料を補油して運航する初の事例となります。今回使用を予定しているバイオ燃料（B24）は、既存燃料にバイオ燃料を24%混合した燃料であり、既存の船舶設備を大きく改修することなく、温室効果ガス（GHG）排出量の削減効果が見込まれます。

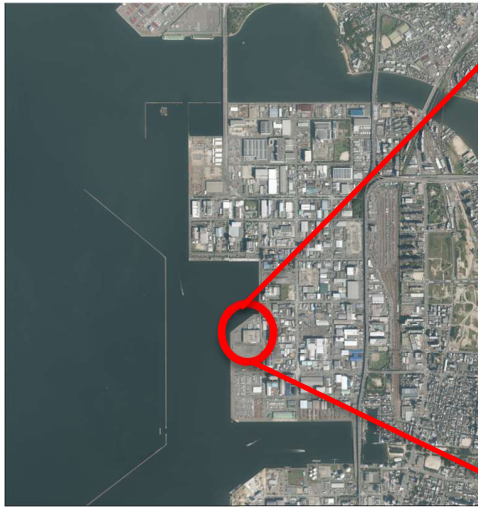
バイオ燃料の調達は、出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：酒井則明）および伊藤忠エネクス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：田畑信幸）の協力のもと実施する予定です。

### ■概要

- 航路：博多港～敦賀港
- 本船：「なのつ」（総トン数：8,348トン）
- 日時：2026年6月16日（火）16：30よりバイオ燃料（B24）補油
- 受付：16：00～16：30の間にお越しく下さい
- 場所：博多港箱崎ふ頭11号岸壁（福岡市東区箱崎ふ頭6丁目4／位置図参照）

※補油日時は天候等の影響により変更となる場合があります。

## <位置図>



(写真提供：福岡市港湾空港局)



(写真提供：福岡市港湾空港局)

## ■取り組みの背景

当社は、環境負荷の低減に向けた取り組みを推進しており、その一環として、モーダルシフトの推進に加え、既存船でも利用可能で脱炭素化に寄与するとされるバイオ燃料に着目しました。

バイオ燃料とは、植物や動物由来の有機資源（バイオマス）を原料として製造される燃料であり、主に廃食油や油脂、農産副産物などが活用されています。燃焼時に排出されるCO<sub>2</sub>は、植物の成長過程で吸収されたCO<sub>2</sub>と相殺され、ライフサイクル全体で見れば排出量はほぼゼロとみなされます。また、既存のエンジンや燃料供給設備を大きく改造することなく使用できる点から、実用性の高い燃料の一つとされています。

当社は、バイオ燃料の活用およびモーダルシフトの推進を通じて、当社が掲げるVision「フネ×ヒトのチカラで、日本の未来を明るくデザインする」の実現を目指し、持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

\*当社MVV (Mission・Vision・Value) の詳細は公式サイト  
(<https://www.kyk.co.jp/about/mvv/>)をご参照ください。

以上

### 【本件に関するお問い合わせ先】

近海郵船株式会社

営業企画部企画業務課

TEL：03-5405-8280